

クサノオウの異名・方言・別名など・(愚説)。

横山 健三

1. アカコノバッコ・山形(置賜・赤湯)・(赤子のバッコ・バッコは糞のこと。茎から出る黄色の汁が似る)。
2. アカノバッコ・山形(東置賜)・(アカは赤子、1と同じ)。
3. イボクサ・青森(疣草・4の疣取りと、同じ。疣取りに使用。取る時か、取った後に使用か、前後どちら?又、この汁を付けると、疣が取れる、消えるという俗信か)。
4. イボトリ・広島(比婆)・3の説明と同じ)。
5. エボクサ・青森(上北、三戸)・(3と4と同じ)。
6. ガキノボッコ・岩手(江刺)・(餓鬼は子供のこと。ボッコは不明だが、大便か)。
7. ガンコノババ岩手(上閉伊)・(ガンコは蟹か、ババは大便)。
8. キツネノオウ・長野(佐久)・(狐の王・キツネの草の王、キツネノ何々という言葉が大変多い。キツネは化けると昔、嫌われた。が、今は、夫婦仲は睦まじいと評判。人間の方が真似すべしとの声があるとか)。
9. キンカンゴサ・長野(早川)・(キンカンは、キンカで、ツンボのこと。髻の方言なぜ、キンカか、不明。ツンボが治るか、反対にツンボになるという俗信から?。22、23と 関係がある)。
10. クサノオウ・標準和名・『植物名彙』(kusa-no-o)・宮城(仙台)・長野。
語源説、三説ある。①草の黄で、茎から黄色の汁を出すから、②草の王で、薬にすると、良いのでいう。③瘡(クサ)の王で、瘡(クサ・皮膚病の一)の治療に大変よいからという)。
11. クサノウウ・『大和本草』・長野(戦前)。(草の王・王は現在オウだが、古くウウと、書いて、読んだ)。
12. クサノヲ・『大和本草批正』(「艸州の王・くさのわうの略名」)。
13. クサノタマ・『薬品手引草』・『薬用植物の新療法』・(草の玉か、不明)。
14. コゾウナカセ・静岡(小僧泣かせ、なぜか。この汁は、毒であり、多くの方言に、大便との類を見る。小僧も嫌がる品物であるということか)。
15. コタチバコ・岩手(上閉伊)・秋田(鹿角)・(土地の学者も難解語とする。秋田県産『植物地方名考』(松田孫治者)に「コタチバコは、小さい立箱の意で、タケニグサのタチバコに比較していうので、小さいタケニグサというものであろうか。外部的形態よりも、傷口から黄紅色の液を出すことが、似ていることの、類例から出たものであると考えられる。」とある)。
16. タムシクサ・『大和本草批正』。(頑癬・田虫・別項参照。この汁は田虫の治療に大変よいと評価する向きがある)。
17. タムシグサ・岩手(二戸)・秋田(鹿角)・千葉(山武)・岡山(苫田)・広島(比婆)・鹿児島(始良)・(16と同じ)。
18. ダンベグサ・山形・(ダンベは男の一物。その草、19を見る)。
19. ダンベハレ・山形(北村山)・(ダンベ腫れに使用か。土地の人に聞くとする)。
20. チチクサ・福島(相馬)・(チチクサ・チチグサの名前の植物方言は多数ある。乳状の汁、又、液状のものが出る草に、この名がある、このチチは黄色い液のこと)。
21. チドメグサ・長野・和歌山(血止め草・出血のときに、この汁をつけた)。
22. ツンボグサ・長野(桑取)・(9、23と関係がある)。
23. ツンボグサ・新潟(中頸城)・(前の9・キンカンゴサ・23・ツンボグサと、関係する。毒草と見るか、薬草と見るか。毒草と見ると、この草を食べると、ツンボ(髻)になる、危険な草という意味になる。が、薬草と見ると、この草でツンボ(髻)が直るという解釈になる、土地の人は、どう見たか。タケニグサとの関係と類似に注目する)。
24. トウセンソウ・周防(トウセン草・トウセンの意味不明、土地の人に聞く。今山口県)。
25. ドクゼリ・山形(鮑海)・(毒ゼリ、セリの一とする)。
26. ドクソウ・長野(毒草、その通り)。
27. ドクノオウ・長野(毒の王、毒の王様、草の王から、関連する名前)。
28. ドクバナ・秋田・長野(毒花・花の部分も毒があるか)。
29. ドクブツノキ・長野(北佐久)・(毒物の木・草でも、

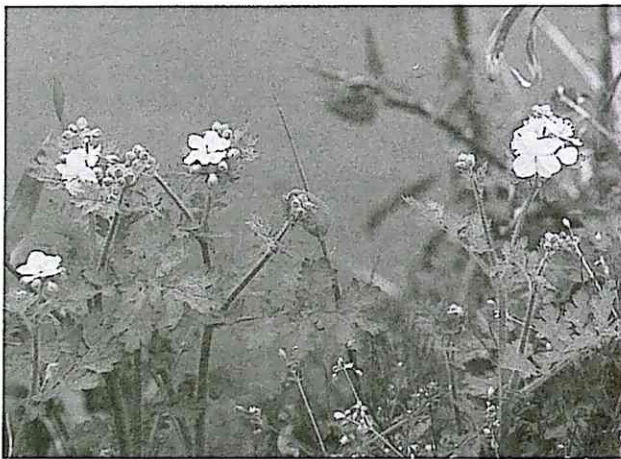
〇〇ノキという名前がある)。

30. ドモクサ・長野・(31と同じ)。
31. ドモグサ・長野・(ドモは何か。ドモは長野県で、顔に白く出る皮膚病。疥(はたけ)のこと。この草の液をドモに使用か、土地の人に聞く)。
32. ナンコノババ・青森。(ウマの糞という。『三陸植物誌』に説明)。
33. ニガクサ・宮城(志田)・(苦い草)。
34. ニカッコノアツパ・長野(杉野沢)・(ニカッコは乳飲児。アツパは糞のこと)。
35. ハクツサイ・(白屈菜の漢字は『大和本草』。字音は『和漢三才図会』・『薬品手引草』)・(生薬名・自屈菜は、Herba Chelidoniiは全草を採集し乾燥したもの)。
36. ハクツサイ・青森(中津軽)・(白屈菜の靴り)。
37. ヒゼンクサ・岩手(二戸)・(38、40、41、42は、同じ。皮癬(ヒゼン)はカイゼン(疥癬)と同じ。皮膚病の一。薬草とする)。
38. ヒゼンクサ・(諸本)・(37と同じ)。
39. ビッキノクソ・岩手(盛岡)・(ビッキはカエルのこと)。
40. ヒゼンバナ・岩手(九戸)・(皮癬花・薬用)。
41. ヒンゼンバナ・岩手(九戸)・(皮癬花の訛り)。

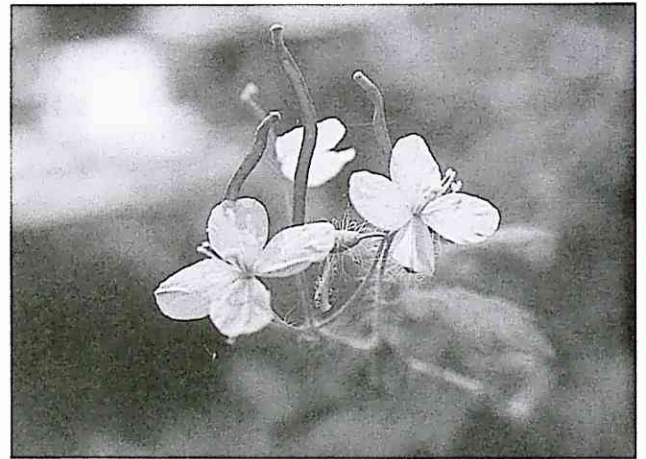
42. フゼンバナ・秋田(山本)・(皮癬花の訛り)。皮癬は別項参照)。
43. ヘイビグサ・長野(佐久)・(蛇草・ヘビの草・ヘビと付けるのは、人の嫌う草に付けると解釈する人もいる。蛇草の名前の草は、他にもある)。
44. ベベハリグサ・長野・(べべは、何か。張り草の意味。どこに貼ると云うのか。土地の人に聞くと判るだろう)。(べべという方言に、いろいろの意味がある)。(別項参照)。
45. ヤイトバナ・愛媛(周桑)・(灸花、灸に類似を見たか。また、使用か)。
46. ヤゲ・岩手は(上閉伊、釜石)・(不明だが、47のヤケツリバナの省略と見るのは、どうか)。
47. ヤケツリバナ・長野(東筑摩)・(ヤケツリ花。ヤケツリは、①焼け攀りて、やけどの引き攀った所。やけど跡。②やけど。③やけどした人の方言である。花に類似類か。或いは、やけどの薬としたか。土地の人に聞く)。

※ 植物方言は、その土地にある言葉で、表現している場合が多いので、解釈は難しいです。

その土地の人に聞けば、容易に判然とするかも知れませんが、敢えて愚説を述べ、識者の御高説をお願い致します。



クサノオウ 西蒲原郡分水町国上 1996 5 4 撮影



クサノオウ 東蒲原郡阿賀町津川駅前 2005 6 18 撮影

フタリシズカの開花

5月ころ、茎の先に花穂(穂状花序)2-3本を出し、それに無柄の細かい白花を点々と着ける。また、夏から秋にかけて閉鎖花と出す特性がある。鉢で栽培していたフタリシズカに表紙裏の写真のように、春に茎の先と根元に同時に花穂を着けていたので、本号に掲載した。根元の花が閉鎖花であるかどうか明らかでないが、興味深い現象である。

木本のチャンチンでよく見かける現象であるが、大きな

樹に花が着くと、根に不定芽で伸び出した若苗にも花を着けることがある。一見、草の一種に花が咲いたように見える。また、ブナでも類似した開花現象をまれにみたことがあり、本誌18号(1995)に、ブナの大樹の根元に生じた「ひこばえ状枝」に花が咲き、結実している例を紹介している。